

2023.6.23

Dance Base Yokohama

**愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』**  
**2023年8月、新国立劇場公演を皮切りに、東京-幸田(愛知)-北九州(福岡)のツアーを開催**  
**米沢唯、中川賢、そして6名の選りすぐりのダンサーらが出演**



©Naoshi HATORI / 提供 愛知県芸術劇場

この夏、「愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』」のツアーを開催し、東京/新国立劇場にて8月4日(金)～6日(日)、愛知/幸田町民会館にて8月18日(金)、福岡/J:COM北九州芸術劇場にて8月27日(日)に、全7回の上演を行います。

『Rain』は、イギリスのサマセット・モームによる短編小説の中でも傑作と呼ばれる『雨』を題材としたダンス作品で、愛知県芸術劇場とDance Base Yokohamaによる共同製作を行い、2023年3月に愛知県芸術劇場にて初演を迎えました。

DaBYアソシエイトコレオグラファーの鈴木竜が演出・振付を担い、創作において曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる現代美術作家の大巻伸嗣が美術、立体音響を駆使した独自の“空間的作曲”によって聴覚体験の新しい可能性をひらくevalaが音楽を担当し、三位一体の舞台空間を立ち上げています。

この夏の上演では、ダンサーが一部変更となり、中川賢（新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯と初共演）、ほか2名の参加が決定しています。

原作『雨』の物語は、感染症により閉じ込められた一つの島で起こる人間模様がテーマとなっています。原作でははっきりと明かされない描写や関係性をダンス・美術・音楽が一体となって表現した本作は、初演後に多様な視点からの反響をいただきました。

この度、さらにアップデートし、協働を深めたクリエイターとダンサーによって創出される劇場体験に、どうぞご期待ください。

本公演に関する取材、情報提供をご希望の方は、下記担当までご連絡ください。

## 原作:サマセット・モーム『雨』

イギリスの小説家・劇作家サマセット・モーム(William Somerset Maugham/1874-1965)により、1921年に発表された短編小説。感染症により南の島に閉じ込められた医師と宣教師夫妻たちが宿泊先で出会ったのは、品性下劣で信仰心のない一人の女性であった。雨が降りしきる閉鎖空間で過ごすなか、それぞれの人物の価値観の違いから生まれる心情や軋轢、そして予想外の結末が描かれる。

## 愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』

名称：愛知県芸術劇場×DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』

日程：8月4日(金) 19:00開演

8月5日(土) 12:00開演 / 18:00開演

8月6日(日) 12:00開演 / 16:00開演

※開場は開演の30分前

会場：新国立劇場 小劇場 東京都渋谷区本町1-1-1

京王新線「初台駅」中央口直結（都営新宿線乗り入れ。京王線は止まりません）

料金：全席指定(税込) 一般: 6,000円 / U25: 4,500円

発売日：2023年6月26日(月)10:00～

チケットぴあ[Pコード:520-325] <https://t.pia.jp/>

新国立劇場ボックスオフィス 11:00～18:00（窓口販売のみ、現金払いのみ）

※チケット代金のほかに各種手数料がかかります。

特設サイト：<https://rain.dancebase.yokohama/>

お問合せ：Dance Base Yokohama (contact@dancebase.yokohama)

### クレジット(8月東京公演)

振付・演出：鈴木竜 (DaBY) 舞台美術：大巻伸嗣 音楽：evala

出演：米沢唯(新国立劇場バレエ団)、中川賢

木ノ内乃々\*、Geoffroy Poplawski、土本花\*、戸田祈\*、畠中真濃\*、山田怜央 \*DaBYレジデンスダンサー

プロデュース：唐津絵理(愛知県芸術劇場 / Dance Base Yokohama)

勝見博光 (Dance Base Yokohama)

プロダクションマネージャー：世古口善徳(愛知県芸術劇場)

照明ディレクター、デザイン：高田政義 (RYU) 照明オペレーター、デザイン：上田剛 (RYU)

音響：久保二郎 (ACOUSTIC FIELD)

舞台監督：守山真利恵、川上大二郎 舞台監督助手：峯健(愛知県芸術劇場)

舞台：(株)ステージワークURAK

衣裳：渡辺慎也

リサーチ・構成：丹羽青人 (Dance Base Yokohama)

振付アシスタント：堀川七菜 (DaBYレジデンスダンサー)

制作：宮久保真紀、田中希、神村結花 (Dance Base Yokohama)

票券：三五さやか

主催・企画・共同製作：Dance Base Yokohama、愛知県芸術劇場

制作：Dance Base Yokohama

### ツアー情報

【愛知公演】8月18日(金) 18:30開演 会場：幸田町民会館 さくらホール

主催・お問合せ：愛知県芸術劇場 / 幸田町文化振興協会

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/000971.html>

★米沢唯・山田怜央・鈴木竜によるダンスワークショップ開催

8月15日(火) 愛知県芸術劇場大リハーサル室にて（詳細は特設サイトにてお知らせします）

【福岡公演】8月27日(日) 14:00開演 会場：J:COM北九州芸術劇場 中劇場

主催・お問合せ：(公財)北九州市芸術文化振興財団 共催：北九州市

<http://q-geki.jp/events/2023/Rain/>

## PROFILE



©Takayuki Abe

## 【振付】鈴木竜 Ryu Suzuki

Dance Base Yokohama アソシエイトコレオグラファー。

横浜に生まれ、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太など国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション2017コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。国内外のコンクールへ参加する若手バレエダンサーにコンテンポラリーダンスの振付提供・指導を行い、多数入賞に導く。

DaBYでは、2021年に『When will we ever learn?』ほか2作を創作し、愛知県芸術劇場にて初演、その後YPAM連携企画において、KAAT神奈川芸術劇場にて再演。2022年、欧州文化首都リトアニアにて初の振付委嘱（改訂版）の他、インド、国内4ヶ所にて再演。



©paul barbera/where they create

## 【美術】大巻伸嗣 Shinji Ohmaki

岐阜県出身。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。主な個展に、「存在のざわめき」（関渡美術館/台北,2020）、「まなざしのゆくえ」（ちひろ美術館,2018）、「Liminal Air Fluctuation - existence」（Hermèsセーヴル店/パリ,2015）、「存在の証明」（箱根彫刻の森美術館,2012）など。あいちトリエンナーレ（2016）、越後妻有アートトリエンナーレ（2014～）、アジア太平洋トリエンナーレ（2009）、横浜トリエンナーレ（2008）などの国際展にも多数参加。近年は横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」（横浜赤レンガ倉庫, 2019）、「Louis Vuitton2016 - 17FW PARIS MEN'S COLLECTION」（アンドレシトロエン公園/パリ,2016）など舞台やパフォーマンスでも作品を発表する。現在「地平線のゆくえ」（弘前れんが倉庫美術館,2023/10/9まで）を開催中。その



©Susumu Kunisaki

## 【音楽】evala

音楽家、サウンドアーティスト。新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」主宰。立体音響システムを駆使し、独自の“空間的作曲”によって先鋭的な作品を国内外で発表。2020年、完全な暗闇の中で体験する音だけの映画、インビジブル・シネマ『Sea, See, She - まだ見ぬ君へ』を世界初上映し、第24回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。2021年、空間音響アルバム『聴象発景 in Rittor Base - HPL ver』が国際賞プリ・アルスエレクトロニカ栄誉賞受賞。近作に、世界遺産・薬師寺を舞台にした『Alaya Crossing』（2022）、『Inter-Scape 22』（東京都庭園美術館,2022）、『Haze』（十和田市現代美術館,2020）、SONY Sonic Surf VRを用いた576ch音響インスタレーション『Acoustic Vessel Odyssey』（SXSW, Austin 2018）など。

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]にて、代表作品『大きな耳をもったキツネ』および『Our Muse』を6月24日より展示予定。

[evala.jp](http://evala.jp) [seebyyourears.jp](http://seebyyourears.jp)



©Kenji Azumi

### 【出演】米沢唯 Yui Yonezawa

愛知県出身。2010年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団。2011年ビントレー『パゴダの王子』で主役デビュー。2013年プリンシパルに昇格。2004年ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門金賞、2006年ジャクソン国際バレエコンクールシニア部門銅賞など。2014年中川鋭之助賞、2017年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年舞踊批評家協会新人賞、2019年愛知県芸術文化選奨文化賞、2020年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞優秀賞受賞。愛知県芸術劇場の自主事業にも多数参加している。うち、劇場プロデュース作品としては、2004年ダンスオペラ2『青ひげ公の城』、『戸外にて』（振付：アレッシオ・シルヴェストリン）、2005年ダンスオペラ3『UZME』（振付：笠井叡）、2005年「あいちダンスフェスティバル」にて大島早紀子作品『ユークロニア』にクリエイションから参加して、初演に出演している。



### 【出演】中川賢 Satoshi Nakagawa

6歳から現代舞踊を和田朝子に師事。関東国際高校演劇科卒業。日本大学芸術学部演劇学科洋舞コース卒業。2003年～2009年まで、現代舞踊公演『火の鳥』主演のほか『回転木馬』カーニバルボーイ役や『イーストウィックの魔女たち』マイケル役などミュージカルにも出演。2009年から日本初の公立劇場専属舞踊団新潟市りゅーとぴあ「Noism1」にて活動。2018年『ROMEO & JULIETS』ティボルト役で退団した。その後東京に戻り、平山素子、中村しんじ、川野眞子、森山開次、鈴木竜などの作品に出演。

愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohamaパフォーミングアーツ・セレクション鈴木竜『When will we ever learn?』に出演。ダンスのみならず様々なジャンルに挑戦している。



©Hawaka

### 【出演】木ノ内乃々 Nono Kinouchi

Dance Base Yokohama レジデンスダンサー。

3歳よりマユミキノウチバレエスタジオでクラシックバレエを学ぶ。国内のバレエコンクールにて第一位を多数受賞。2015年よりワシントンバレエスクール、ベルリン国立バレエスクールに留学。帰国後日本に拠点を移し、2019年以降、安藤洋子、遠藤康行、白井晃、中村しんじ等の作品他、ソロでPOLA Apex ブランドムービーに出演。近年は、ソロ作品『from before』（2021）、『sarabande』（2022）を発表する等、振付にも意欲的に取り組んでいる。

Dance Base Yokohamaでは、安藤洋子演出・振付『MOVING SHADOW』に出演。



### 【出演】ジョフォア・ポプラヴスキー Geoffroy POPLAWSKI

Rudra BéjartとCannes Rosella Hightowerで学び、Maurice Béjart, Jean Christophe Maillot, Claude Brumachon, Davide Bombana, Julien Ficelliなどの著名な振付家の作品を踊る。2011年、振付家のMei Hong Linと共にドイツやオーストリアで活動を開始。ロミオとジュリエット（ロミオ）、くるみ割り人形（くるみ割り人形）、リトルマーメイド（エリック王子）、白鳥の湖などの主要な役を踊り、その振付も行ったほか、オリジナルの作品にも出演した。

オーストリアのTanzLin.zに5年間所属した後、ドイツのNanine Linning Dance Companyに1年間所属し、2018年に日本に移住。

Noism Company Niigataに4年間所属し、そこで日本の文化とダンスの美学を経験。退団後はフリーランスの振付家、ダンサーとして日本で活動中。



### 【出演】土本花 Hana Tsuchimoto

Dance Base Yokohama レジデンスダンサー。

岐阜県出身。4歳からクラシックバレエを始め、その後コンテンポラリーダンスに  
出会い上京。2022年若手育成事業MOSA/月面着陸プロジェクトに参加。月面着陸  
メンバー。ありのままのからだ、新たな出会いを求めて踊っている。



### 【出演】戸田祈 Inoru Toda

Dance Base Yokohama レジデンスダンサー。

1993年生まれ。大阪府出身。2020-2021池上直子率いるプロジェクトカンパニー  
にて活動。2021年よりPaul Julius率いるJapan Contemporary Dance Companyに  
参加。また、Giulio Ciabatti、三崎彩、宮本亜門、Jiri Pokorny、高原伸子、各氏  
の作品、クリエイションに参加。9月の「パフォーミングアーツ・セレクション  
2023」にて、イリ・ポコルニ作品に出演予定。



### 【出演】畠中真濃 Mano Hatanaka

Dance Base Yokohama レジデンスダンサー。

東京都出身。お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。DaBYの企画にて小尻  
健太や鈴木竜、イリ・ポコルニ、ハラサオリなどの作品に出演するほか、女屋  
理音などの作品にも参加している。また、踊りや作品のリアリティについて再  
考する目的で、自身の創作活動も始める。9月の「パフォーミングアーツ・セ  
レクション2023」にて、イリ・ポコルニ作品に出演予定。



### 【出演】山田怜央 Reo Yamada

2004年愛知県生まれ。2011年からHIPHOPを始め、JAZZの幅広い表現に惹か  
れ、2017年からJAZZを本格的に学び始める。柔軟性や身体能力を活かした、ダ  
イナミックな動きを得意とする。チーム活動、ソロ活動において様々なコンテ  
ストで上位入賞や決勝進出を果たす。2020年よりCONTEMPORARYを始め、小  
暮香帆『路上の宝石』、鈴木竜『Proxy』（製作：DaBY）に出演。2022年より月  
灯りの移動劇場に参加。チーム振付、舞台振付、インストラクターなど、  
Dancer兼Choreographerとして活動している。



©Takayuki Abe

**【プロデューサー】****唐津絵理(愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー/DaBYアーティストティックディレクター)**

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2021年より現職。

2010年～16年あいちトリエンナーレのキュレーター（パフォーミング・アーツ）。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。

DaBY設立を機に、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等に積極的に関わる。著書に『身体の知性』等。

令和4年度（第73回）芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。

## 愛知県芸術劇場

---

名古屋市内の栄地区に位置する芸術文化の複合施設「愛知芸術文化センター」内に3つのホールを有する県下最大級の劇場。本格的なオペラやバレエが上演可能で、ヨーロッパの劇場を連想させる大ホール（2,480席）、クラシック音楽に最適な響きを持ち、パイプオルガンを備えたコンサートホール（1,800席）、自由なスタイルで創造的な表現の場として活用いただけるブラックボックス型の小ホール（最大330席）と、それぞれのホールが特徴を持つ。

## Dance Base Yokohama

---

ダンスを中心とするパフォーミングアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティストティックディレクターを唐津絵理(愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー)が務め、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。